

観点別学習状況の評価と評定への総括について

観点別学習状況の観点ごとの評価および評定を総括するために、次のような手順が必要になる。

- 1 観点別学習状況の評価の観点ごとの総括
  - (1) 単元における観点ごとの評価の総括
  - (2) 学期末における観点ごとの評価の総括
- 2 観点別学習状況の評価から評定への総括
  - (1) 基本的な考え方
  - (2) 学年末における観点ごとの評価の総括と評定への総括

- 1 観点別学習状況の評価の観点ごとの総括
  - (1) 単元における観点ごとの評価の総括  
**単元の評価計画をもとに、教師用補助簿を準備する**

評価の観点についての理解

観点別学習状況の評価の四つの観点到示す内容を整理し、理解することが大切である。

《運動への関心・意欲・態度》

- ア：楽しさ体験（関心・意欲）
- イ：社会的態度（援助活動、行動規範、集団結合）
- ウ：安全な態度

《運動についての思考・判断》

- ア：課題達成（目標の設定、課題の選択、活動の決定）
- イ：評価

《運動の技能》

- ア：技能の向上（個人技能、集団技能）
- イ：審判

《運動についての知識・理解》 小学校は思考・判断に含む

- ア：運動・安全（運動の特性やルール、体力の意義、運動の効果等で運動についての知識・理解にあたる内容

下記の教師用補助簿（例）を、単元ごとに1枚作成する。

「教師用補助簿（例）」＜単元別学級一覧表＞ 小学校5年生 ハードル走 [表1]

時間		1	2	3	4	5	6	計
名前	重点とする観点	関・意・態	思考・判断 技能	技能	関・意・態	思考・判断 技能	関・意・態 技能	
	観点							
1 岐阜太郎	関・意・態							
	思考・判断							
	技能							
2	関・意・態							

空欄の箇所は、その単位時間に重点をかけて指導する観点であるとともに、評価する観点となる。

上記例 [表1] の場合

- ・運動への関心・意欲・態度 3 / 6 時間
- ・運動に関する思考・判断 2 / 6 時間
- ・運動の技能 4 / 6 時間

## 一人一人の学習状況に応じて指導する

授業中は、助言・補助・安全等の指導に徹し、児童に寄り添う。

すべての児童が「おおむね満足できる」状況に達することができるよう、特に指導・援助を要する児童への個別指導を充実させる。

記録をするために、補助簿を持って動き回るようなことは好ましくない。

## 評価資料の整理・集計をする

授業終了時に「おおむね満足できる」状況より質的に高い児童についてはA( )、「おおむね満足できる」状況に至らない児童についてC( )を教師用補助簿に記入する。[表2]

特に記述すべき事実があった場合は、その時間の重点(観点)となっていなくても、メモをしておく。([表2] 網掛け内のコメント)

授業終了後あるいは単元終了後に、個人カードやグループカードを参考に加筆・修正を加える。

「記録後の教師用補助簿(例)」 <単元別学級一覧表> 小学校5年生 ハードル走 [表2]

時間		1	2	3	4	5	6	計
重点とする観点 名前 観点		関・意・態	思考・判断 技能	技 能	関・意・態	思考・判断 技能	関・意・態 技能	
1 岐阜太郎	関・意・態	A			A		A	A
	思考・判断			課題設定				B
	技 能			A		A	A	A
2	関・意・態	C	ふざげ注意					B
	思考・判断							B
	技 能		C	C	伸び姿勢		C	C
3 美濃一郎	関・意・態				A		A	A
	思考・判断		A			A		A
	技 能		C	A		A	A	A

\* 空欄は「おおむね満足できる」状況で、「B」を示す

メモした内容は、その後の指導に生かすとともに、児童の成長の過程を評価する個人内評価と合わせて、特に目立った児童について通信簿や指導要録の所見欄に記述し、認め価値付ける事実としたい。

(2) 学期末における観点ごとの評価の総括  
 年間単元配列表が下記のような場合 (小学校5年生)

[表3]

単元	月	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	計
単元名 (指導時間)		・短距離走・リレー(4) ・体づくり運動A(5) ・跳び箱運動(6) ・走り幅跳び(5) ・水泳(10) ・けがの防止(4)				・表現(8) ・マット運動(9) ・ハードル走(7) ・バスケットボール(14) ・心の健康(2)				・フォークダンス(4) ・体づくり運動B(2) ・サッカー(8) ・心の健康(2)			
	計	34時間				40時間				16時間			90時間

観点別得点の集計から評定を行う  
 「観点別評価及び評定簿 2学期(例)」 ~ 岐阜太郎さんの場合 ~

名前	単元 観点	表現	マット 運動	ハード ル走	バスケ ット	心の健 康	観点別 の総括	
		1	岐阜太郎	関・意・態	A	A		A
		思考・判断	B	B	B	A	B	B
		技能	B	C	A	B		B
		知識・理解					B	B

2 観点別学習状況の評価から評定への総括

(1) 基本的な考え方

評定は、学習指導要領に示す体育科の目標に照らして学習の実現状況を総括的に評価するものである。観点別学習状況の各観点は、学習指導要領に示す体育科の目標に照らして学習の実現状況を分析的に評価するものであり、観点別学習状況の評価は、評定を行う場合において基本的な要素となるものである。この両者の関係を前提とすると、観点別学習状況の評価結果を総括していけば、観点別学習状況の評価と評定が以下のような対応関係にあることが理解できる。

観点別学習状況の評価		評定	
十分満足できる	A	十分満足できる	3
おおむね満足できる	B	おおむね満足できる	2
努力を要する	C	努力を要する	1

「関心・意欲・態度」	「思考・判断」	「技能」	「知識・理解」	「評定」
A	A	A	A	「3」
B	B	B	B	「2」
C	C	C	C	「1」

上記の場合を除き、各観点ごとのABCが決まれば評定も必然的に決まるものではなく、様々な組合せが考えられる。同じ「A」「B」「C」という評価結果についても、それぞれの評価結果が示す実現状況には幅があり、日常観察や各単元の評価の積み上げから総合的に判断する。

(2) 学年末における観点ごとの総括と評定への総括  
 学期末の観点ごとの評価の総括（通信簿等への生かし方を含む）

< 岐阜太郎さんの場合 >

名前	観点	単元	表現	マット運動	ハードル走	バスケット	心の健康	観点別の総括	通信簿等
		観点							
1	岐阜太郎	関・意・態	A	A	A	A	B	A	2
		思考・判断	A	B	B	A	B	B	
		技能	B	A	A	B		B	
		知識・理解					B	B	

各学期毎に集計をした結果について、年間の総括をする。

< 岐阜太郎さんの場合 >

名前	観点	領域	フォークダンス 4時間	体づく り(C) 2時間	サッカー 8時間	心の健康 2時間	観点別の総括	通信簿等
		観点						
1	岐阜太郎	関・意・態						略
		思考・判断						
1	岐阜太郎	技能						略
		知識・理解						



名前	観点	学期	1学期	2学期	3学期	観点別の総括	評定
		観点					
1	岐阜太郎	関・意・態	A	A	A	A	2
		思考・判断	A	B	B	B	
		技能	B	A	B	B	
		知識・理解	A	B	B	B	